

2019. 6. 30.

山口県子ども読書支援センター（山口県立山口図書館）発行

TEL083-924-2111 FAX083-932-2817 <http://library.pref.yamaguchi.lg.jp>

★メールマガジン「本はともだち～山口県子ども読書支援センターニュース」配信中！

メールマガジン「本はともだち」は、新刊紹介や県内の行事など、より充実した内容で配信中です。読者登録の方法は県立図書館のホームページをご覧ください。

【山口県子ども読書支援センター行事】

★幼児のためのおはなし会

○日時：7月2日（火）11：00～11：20 ○会場：山口県立山口図書館 ○対象：幼児

〔6月のおはなし会で使った本〕

『てんてんてん』 わかやましずこ/作 福音館書店 1998

『ねーずみねーずみどーこいきゃ?』 こがようこ/構成・文 降矢なな/絵 童心社 2018

『ちいさなねこ』 石井桃子/さく 横内襄/え 福音館書店 1994

『おおきくおおきくおおきなあれ』 まついのりこ/脚本・画 童心社 1983

『いったでしょ』 五味太郎/作 偕成社 2004

★第2回新刊児童書閲覧会

○日時：令和元年7月31日（水）10：00～12：00 ○場所：山口県立山口図書館 第2研修室

○対象：公共図書館職員、学校図書館関係者、ボランティア等 ○定員：40名（要申込み・先着順）

○申込方法：7月26日（金）までに、電話、FAX、Eメールで申込み

★「夏休み小学生のためのおはなし会」

○日時：令和元年8月4日（日）11：00～11：50 ○会場：山口県立山口図書館 第1研修室

○対象：小学生とその保護者 ○実演：お話の出前 ジョイントネット萩「草の芽」のみなさん

○内容：影絵「耳なし芳一」、ブラックシアター他 ○定員：25名程度（要申込み・先着順 保護者人数は除く）

○申込方法：7月31日（水）までに、カウンター、電話、FAX、Eメールで申込み

◎申込み、連絡先：山口県子ども読書支援センター（電話：083-924-2111 FAX：083-932-2817 Eメール：a50401@pref.yamaguchi.lg.jp）

【新刊紹介】 価格は消費税抜き

<絵本-乳幼児から>

『ねむねむごろん』 たなかしん/作・絵 KADOKAWA 2019.4 ¥1000

ぞうさんがねむねむどしん、と大きくうつぶせ。くまさんがねむねむごろん、と大の字に。とりさんがねむねむくるん、と羽に顔をうずめる。うさぎさんがねむねむこてん、と横になれば、りすさんがねむねむごろんごろんごろん…。みんなそれぞれお気に入りのおやすみポーズ。動物たちの優しい表情が眠りを誘う。海の砂を用いた独特の画法で描かれたおやすみ絵本。

<絵本-3, 4歳から>

『みち』 五味太郎/さく 福音館書店 2019.4 ¥900

狭い道、広い道、一本道、別れ道、川は船の道、空は飛行機の道、線路は汽車の道。家の中にも道がある。煙の道や電気の道、水の道やガスの道…。探してみよういろいろな道。「道はいろいろなものを見せてくれる。さあ道を歩いてごらん」1973年作者の絵本作家デビュー作。福音館書店の月刊絵本「かがくのとも」創刊50周年を記念して出版された厳選セットの一冊。

<絵本-5, 6歳から>

『タタタタ』 りとうようい/作・絵 鈴木出版 2019.4 ¥1300

草原を駆け抜けるチーター。気づいたガゼルが逃げ出した。あれれ？チーターはぴょんとガゼルを飛び越し、ヌーの群れもおかまいなしに駆け抜けていく。しまうまたちのいる水飲み場もつきつてまだまだ走る。長くて美しいしっぽ、たくましく蹴り上げる脚、しなやかな身体、迫力満点で駆け抜けるチーターが行き着く先は？驚きの展開が待っている読み聞かせにもピッタリの絵本。

<絵本-小学校低学年から>

『なまえのないねこ』 竹下文子/文 町田尚子/絵 小峰書店 2019.4 ¥1500

ぼくは名前のない野良猫。町の猫たちはみんな名前を持っている。靴屋の猫はレオ。本屋の猫はげんた。八百屋の猫はチビ。お蕎麦屋の猫はつきみ。名前を欲しがらるぼくに、お寺の猫のじゅけむが言う。「自分でつけられたいじゃない。自分の好きな名前をさ。」町をさ迷いながら自分の名前を探す野良猫が出会った、本当に欲しかったものとは？ラストでじんわりと心が温くなる絵本。

『しょうぎはじめました』 間部香代/文 田中六大/絵 文研出版 2019.5 ¥1400

学童保育で将棋を覚えたぼく。でもなかなか勝てない。そこで夏休みに将棋の強いじいちゃんの家で特訓を受けることに。パンクに負けて悔し涙を見せたぼくに、「自分の弱さを知らないとは強くなれない。泣くのも大事だ」と言うじいちゃん。そして家に帰る日、ぼくはじいちゃんとお戦いする。さて勝負の行方は？じいちゃんの頭の形にも注目。見返しには駒の動き方や基本的なルールも掲載。

<絵本-小学校中学年から>

『おーい、こちら灯台』 ソフィー・ブラッコール/さく 山口文生/やく 評論社 2019.4 ¥1600

ある小さな島に新しい灯台守がやってきた。彼の主な仕事は、船を安全に導くため灯台の明かりを灯し続けること。起きたことは何でも灯台日誌に記録する。かつてはなくてはならない存在だった灯台守の仕事と暮らし、その半生が描かれる。穏やかな海、荒れ狂う海、様々な表情をみせる海の描写が美しい。巻末の「灯台について」も必読。2019年コールデコット賞受賞作。

『やんばるの少年』 たじまゆきひこ/作 童心社 2019.5 ¥1600

沖縄のやんばるの森には珍しい鳥や虫などたくさんの生き物が住んでいる。森は僕たちの遊び場だ。ある日森の木が切り倒される。

へリパッドを作るためだ。やんばるの空にオスプレイが飛ぶ。森が壊されていく。自然を破壊する大きな力に抵抗する術もわからずに追い出されていく子どもや生き物たち。力強い筆致と鮮やかな色彩で描かれた、自然への敬意と平和への思いが溢れる絵本。

<読み物—小学校低学年から>

『もりのゆうびんポスト』 原京子/作 高橋和枝/絵 ポプラ社 2019.5 ¥1100

冬休みにおじいちゃんちに泊まりにきた小1のまゆ。いつもはマンションに住んでいるので、この家の近くの森に行くのを楽しみにしていた。ある日、森に探検に出かけると、木の間に置いてある手作り郵便ポストを見つける。試しに手紙を入れると、次の日には返事が。何度か手紙のやり取りをしていると、相手がきつねのコンタであることがわかる。そうえん社2007年刊のリニューアル版。

<読み物—小学校中学年から>

『ブランの茶色い耳』 八東澄子/作 小泉るみ子/絵 新日本出版社 2019.4 ¥1400

動物保護センターで保護された中型犬。耳の先だけ絵の具をのつけたみたいで茶色いから名前は「ブラン」。小4のみほは、ブランを家族に迎えることに決め、大切に世話をしていた。公園へ散歩に出かけたある日、ブランは物音に驚いた拍子に逃げ出し、行方不明に。友達や家族と懸命にブランを探す…。ブランを通して、うまく友達と関わっていけるようになるみほの成長物語。

<読み物—小学校高学年から>

『作り直し屋 十年屋と魔法街の住人たち』 廣嶋玲子/作 佐竹美保/絵 静山社 2019.4 ¥1000

33年前に結婚祝いでもらったお皿セット。捨てるに捨てられず困っていたカナさん。「いらぬ物、捨てたい物はないかい？私の魔法で生まれ変わらせてあげるよ。そう、作り直すのさ。」と言う、怪しげなおばあさんに出会う。お皿を渡すと…。その人に必要な物に変身させる魔法のセンスに圧巻の7つの短編集。『十年屋』（既刊）の魔女ツルの「作り直し屋」を舞台としたファンタジー。

<読み物—中学生から>

『徳治郎とボク』 花形みつる/著 理論社 2019.4 ¥1400

頑固者でマイペースのお祖父ちゃんとは、ちょっと距離を置いている家族や従妹たち。そんな徳治郎じいちゃんとボクは何となく意思疎通し、ガキ大将だった頃の話聞くのが、夏の帰省の楽しみになっていた。ボクが高学年になり、足が遠のき始めたころ、お祖父ちゃんはずっと弱ってしまい…。中学生のボクが、祖父との関わりを回想し、祖父のこだわりの生き方を考える。

『箱に入れた手紙』 ヴァレリー・ゼナッティ/作 伏見操/訳 文研出版 2019.4 ¥1500

2003年9月9日、うちの近所のヒレルカフェで自爆テロが起こった。犠牲者の中に明日結婚するはずの人が。17歳のわたしより3つ年上なだけ。家族とともにエルサレムの平和を願っているわたしは、パレスチナの誰かに手紙を書いて思いを伝えようと思いつく。ガザ地区の内と外とで交わされる手紙に、イスラエルとパレスチナの厳しい実状と、少女の真摯な思いが伝わってくる。

<ノンフィクション—小学校低学年から>

『ぜんぶわかる!アリ』 島田拓/著 ポプラ社 2019.4 ¥2000

日本に296種、世界に12000種以上いるといわれているアリ。日本で身近に見られるクロオオアリのくらしをはじめ、アリの生態を200点以上の写真で紹介。結婚飛行を終えた女王アリを捕まえ、プラスチック容器の中で、産卵からはたらきアリの誕生までを飼育する方法も掲載。著者は、テレビ出演も多く、アリ通販専門店を開業する。「しぜんのはみつ写真館」シリーズ。

『プラスチック惑星・地球』 藤原幸一/写真と文 ポプラ社 2019.5 ¥2000

森の中に不法投棄された大量のプラスチックごみと、その中から食べ物を探そうとしているサル親子。川には森で捨てられたごみが、風に飛ばされたり、雨に流されたりして溜まっている。海岸にもプラスチックごみが打ち寄せられ、海中にも漂っている始末…。サルの親子の視点から、豊富な写真でプラスチックごみがあふれる地球の姿に迫る。巻末に解説「地球に広がるプラスチック」を収録。

<ノンフィクション—小学校中学年から>

『あみちゃんの魔法のこぼれ』 ふじもとみさと/文 文研出版 2019.4 ¥1400

手が全然ない、両足もほとんどない、短い右足の先に1本の指、左足の先には3本の指。こんな状態で27年前に生まれたあみちゃん。家族や周りの人々のサポートと、自分の懸命な努力によって成長し、2018年春には結婚。そんなあみちゃんの、元気になる言葉と、心温まる15のお話を紹介。幼い頃からの写真や、講演を聞いた小学生からのメッセージつき。

『決定版!パラリンピック大百科』 小峰書店編集部/編 小峰書店 2019.4 ¥3000

世界最高峰の障がい者スポーツ大会であるパラリンピック。そして、同じ都市で2回目の夏季パラリンピックを開催するのは世界で初めてとなる、2020年東京パラリンピック。そのパラリンピックの目的やめざすもの、魅力、スーパースターとなったパラリンピアン、60年の歴史、バリアフリーな世界へ向けた取り組み、支えるサポーターなど、ビジュアルで紹介するシリーズ。全5巻。

<ノンフィクション—中学生から>

『内戦の地に生きる フォトグラファーが見た「いのち」』 橋本昇/著 岩波書店 2019.4 ¥900

1992年のソマリア、1994年の南アフリカやルワンダ、2002年のパレスチナなど、30年にわたり、フランスの写真通信社の契約フォトグラファーとして、内戦や難民取材し、紛争や飢餓の現場を見てきた著者が、写真に切り取られた人々の厳しい現実をありのままに語る。モノクロの写真から人々の苦悩、悲しみ、祈りなどが強く伝わってくる。岩波ジュニア新書。

<研究書>

『平湯モデル図書館写真集 子どもたちで溢れる学校図書館のつくり方』 平湯文夫/著 ポイックス 2019.4 ¥2200

市民や子供のための図書館家具と部屋作りに30年以上尽力し、学校図書館を中心に普及してきた「平湯モデル」の実例を、著者自身が撮りためた豊富な写真と図面で紹介。改築・改修の際に施設面から学校図書館を見直し、色遣いや家具、レイアウトの工夫で子供たちが溢れ、学びに役立つ図書館になるポイントを解説する。学校建築の専門誌『月刊スクールアメニティ』の連載等も収録。

『学校司書のための学校教育概論』 野口武悟、鎌田和宏/編著 樹村房 2019.3 ¥2000

現職の学校司書の学校や学校教育への疑問解決に役立てるとともに、学校司書の養成科目「学校教育概論」のテキストとして編集されたもの。子どもの発達と学習のプロセス、学校教育の理念や思想と歴史、教育課程の意義と編成、学校教育の仕組みや現状と課題など、学校司書に欠かせない学校教育の基礎・基本について体系的に学ぶことができる。現職の学校司書によるコラムも役立つ。

※【新刊紹介】の本は、県立図書館で現在受入準備中の本です。そのため、県立図書館の蔵書検索(OPAC)では検索できませんが、利用することは可能です。閲覧、貸出等を希望される方は、お問い合わせください。